

無題

中野勝清

なすすべもなく
呻くしかなかった
おもいの数々を

かなしみの奥底から
反響する声に耳を澄ませ
一語また一語と意味を汲み上げる

過ぎ去りし時は帰らねど
無限の価値はありありと
天上の彼方まで照らし出す